

1 事業報告（令和4年度 令和4年4月1日 ～令和5年3月31日）

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

- (1) 令和4年度の新規貸費生は、貸費生で大学院に進学する1名を含み10名（貸費月額4万円が9名、大学院生1名が2万5千円）、継続者を含めた貸費生人数は27名。但し、年度中に新規貸費生の1名が退学、継続者の内1名が休学、1名が中途解約となったため、令和5年1月時点での貸費生は24名となった。貸費金の合計は、金11,600,000円。
- また、受入返金額は、金30,689,000円。期末の貸費学資金残高は、金122,342,000円（前年度末日比19,089,000円減）である。また、令和5年度の貸費生15名を内定した。
- (2) 給付型の若葉奨学基金では、計5名の給付生に年間計1,200,000円を給付した。また、令和5年度の給付生2名を内定した。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

- (1) 令和4年度の「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の入場者数は、両堂の合計で9,640名（うち丙申堂5,408名、釈迦堂4,232名、前年比では3,404名増）。コロナが落ち着き、丙申堂では1,733名、釈迦堂では1,671名増加した。入館者が徐々に戻ってきているが、コロナ前に比べるとまだ6割程度である。
- (2) イベントについて
- ・4月24日(日)丙申堂の板の間で、声楽家の鈴木美智子さんのコンサート。午後2時からピアノとフルートの伴奏で、「荒城の月」「愛燦燦」「夜明けの歌」などを歌った。入場者は55名、好評であった。
- (3) 「丙申堂のひな祭り」は、3月11日～4月3日に開催した。本間美術館から風間家先祖伝来の雛段飾りが三度目のお里帰り。入館者は昨年から倍増で、730名。

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

- (1) 藤沢の山林で開催している森林体験学習会

春：5月29日（日）5家族で合計13名（子ども7名、大人6名）が参加し、スタッフは6名で計19名。伐採された杉林に杉苗を植林し、森の環境を体感した。昼食に山菜の味噌汁を楽しんだ後、林道の展望が開けた場所まで歩き、庄内平野の景色を眺めた。

秋：10月30日（日）、子ども4名、大人5名そしてスタッフ7名の計16名で実施。前回植林した杉苗を観察し、杉の成長を確認。その後、間伐材を利用して林道途中の沢に橋を架けた。最後には、藤沢の森を水源とする川でサケの遡上と産卵の様子を観察し、森が川そして海とつながっていることを体感した。

(2) 5月14日（土）山林視察

克念社役員・職員の他、庄内銀行様、公益のふるさと創り鶴岡様、庄交トラベル様からもご参加いただき、ご案内のグリーンサービス羽越スタッフを含め総勢23名の視察となった。午前中に、市内藤沢の森にて伐採及び植林の様子、お昼は新潟県村上市山北の大代で、さらに芦の平の伐採地を視察した。

(3) 山林の整備事業については、今年度も下刈、枝打、つる切、間伐等に努めた。事業委託先のグリーンサービス羽越のスタッフ1名が、11月に急死され、その影響もあり冬季間の作業量が例年より少なかった。

4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)

(1) 基本財産の土地及び建物を(株)庄交コーポレーション、(一社)鶴岡地区医師会、(株)庄内ハウジング、NPO 法人しえば外に、また特定資産の駐車場を一般利用者に賃貸した。運用財産の土地、建物（銀座通り旧金屋リビング）及び隣地駐車場については、庄内文化センターに賃貸した。

(2) 日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究会東方学院へ、昨年同様40万円寄附した。また、日本仏教研究の為、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対し例年同様50万円の寄附をした。

以 上